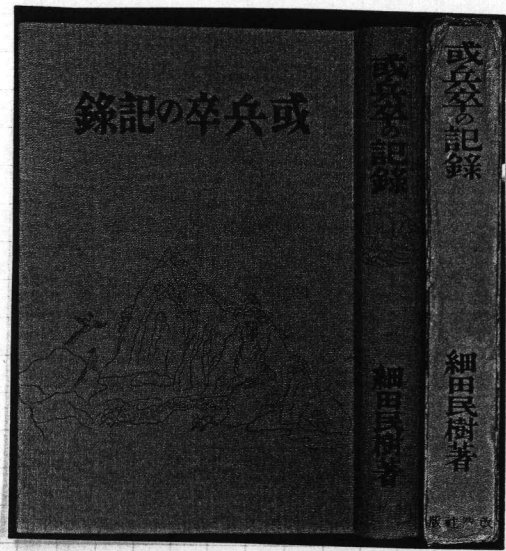


細田民樹 （漢字） 小説家。明治二十五年一月二十七日東京生れ、昭和四十七年十月五日歿（二六二一九七二）。大正四年早稲田大學文學部英文科卒。徴兵二年、除隊後體験小説を諸誌に發表。次でプロレタリア文學運動に参加する。

- 著譯書『惱める破婚者』（大正九年七月二十五日新潮社）、『ドストエユーフスキー全集・第一卷』（木村 莊大 市橋善之輔共譯 大正九年七月二十八月ドストエユーフスキー全集刊行會）、『母の密落』（大正十年一月二十日聚英閣）、『妹の戀』（大正十年四月二十五日新潮社）『新進作家叢書』（『日の下』（大正十一年六月十日新潮社）、『或は兵卒の記録』（大正十二年十一月十日改造社）、『逆生』（大正十四年四月五日大阪・プラトン社）、『現代長篇小説全集・23』（細田 民樹 篇』（昭和四年一月一日新潮社）、『黄色の窓』（昭和五年五月十一日先進社）、『眞理の春』（昭和五年七月一日中央公論社。再刊・十一年十一月二十八日新潮社）『新潮文庫』（『愛人』（昭和六年六月一日新潮社）、『生活線ABC』（昭和六年十一月一日中央公論社）、『大吹岬心中』（昭和九年九月十七日文化集團社）、『黄菊白菊』（昭和十年二月二十日中央公論社）、『淨婚記』（昭和十一年四月二十一日中央公論社）、『井の頭への想ひ』（昭和十一年二月二十日大東出版社）、『悲母再來』（昭和十一年五月二十一日



佃書房)、『永遠の妻』(昭和十七年七月二十五日、香書院)、『旅  
ゆくの心』(昭和十七年十一月、千白有光社)、『真理の春』(改訂決定  
版)、『(昭和二十一年七月、千白、再刊・八月、千白武蔵野出版社。  
全一冊)前篇・八月十五日、後篇・千白武蔵野出版社)、『争ひま  
越えゆくの女』(戀愛克服篇・昭和二十二年一月二十日、女性解放篇・  
二月二十日、淡書房)、『廣島悲歌』(昭和二十五年八月二十五日、世界  
社)、『<sup>共同</sup>研究 偽らぬ日本史』(記述、昭和二十七年九月十五日、中央公  
論社)、『真理の春』(昭和二十九年十一月二十五日、二書房「日本  
プロレタリア長篇小説集」)、『浄婚記』(昭和三十年六月一日、東方  
社)、『ロビンショップの輪』(昭和三十年九月二十五日、大日本雄弁会講  
談社)等。